

事業 番号	団体名	事業名	事業内容	補助金申請額 （円）	採択の可否 採択…○ 不採択…×	採択金額 （円）	委員からの意見・アドバイス
①	ママの居場所 はなカフェ	ママの居場所 はなカフェ	子どもを守るためには、まず自分自身を大切にすることが大事であることから、自分の体と心に耳を傾ける時間をつくるため、子育て中のママ、特にシングルマザーを対象に、発酵ランチワークショップや交流会、セルフケア講座等を実施するもの。	91,000	○	91,000	<ul style="list-style-type: none">ママ同士のつながりを作っていきたいということなので、継続的に参加できるような工夫をしていただきたい。地域の団体とも連携していきたいということであれば、1％システム採択団体の中にもつながりを作っていきたい団体があるため、いろいろと参考になる部分もあると思うので、ぜひつながりを作っていただきたい。事業の目的として「少しでも立ち止まり自分の体と心に耳を傾ける時間を持つこと」とするのであれば、'リラックスできる雰囲気を作っていくことが大事だと思うが、子どもと一緒に子どもを優先してしまうと思うので、託児は必須としていただきたい。今回の事業の内容は発酵食品がメインとなっているが、今後事業を継続して実施していくためにも、参加者の声を聞くなどしてニーズに沿った事業を展開していただきたい。事業を継続していくのであれば、参加者にかかる経費分は参加費で賄って良いと思う。今後、人数や回数が増えていくと団体の負担となるため、参加費の設定の仕方も考えていっていただきたい。
②	青の杜をまもる会	私たちができる災害対策～住み良い街づくりは呼吸する庭から～	個人でできる庭や畑、山をはじめとした土地の防災・減災対策があることを知っていただくため、環境整備に関するドキュメンタリー映画の上映会と、防災・減災の方法についてのお話を開催するもの。	100,000	○	100,000	<ul style="list-style-type: none">「私たちができる災害対策」という事業のタイトルは、多くの一般市民の方が実践していけるものだという印象を持つが、映画の内容は公共事業のような内容で、「小さな防災の家」も庭を掘ったりするような大がかりなもので、多くの市民にとっては、自分たちで何かできるというような内容にはなっていないのではないか。この内容を「私たちができる」という言葉で市民と共有するのは難しいと感じるので、タイトルの再考をお願いしたい。当日のお話会では誰でもできる内容を紹介するとのことだが、資料からは具体的に何をするのかかわからないので、「私たちができる災害対策」とうたうのであれば、もう少し明確な資料を示していただきたい。公共事業のような大規模な施工を含む内容となっているが、映画の内容や施工事例等を弘前市内の防災としてどう落とし込めるのかかわからないので、個人で何ができるか、弘前市内ではどう考えるのか、どのようなアクションができるのかということも示していただきたい。「小さな防災の家」と言われると家自体の防災という印象を持つが、資料を見ると一般的に使用されている防災とは異なる内容なので、誤解を生む可能性があるのではないか。「防災」という言葉を使う上では、慎重に使っていただきたい。環境再生や自然との共生の考え方としては理想的だと思う。主軸は環境再生や自然との共生だと思うので、正確に内容を伝えるため「防災」という言葉は使わない事業名やイベント名を考えていただきたい。
③	WEAR THE CITY	「魅力紡ぐ弘前ファッション！」	小・中・高校生が土手町に足を運びきっかけ作りと伝統工芸品や祭りの要素を通じて弘前の魅力や価値を伝えることを目的に、土手町の店舗で弘前の伝統工芸品や祭りに関する素材を使用した衣服を制作するファッションワークショップイベントを開催するもの。	78,000	○	78,000	<ul style="list-style-type: none">ワークショップで作った作品を土手町の店舗などにしばらく展示したり、テレビなどのメディアに取材に来てもらい、ぜひ活動を宣伝していただきたい。来年度は土手町でランウェイに見立てて、季節にふさわしい格好でファッションショーにも挑戦していただきたい。また、高校生が作ってくれた企画として実施していただけると、他の高校生も土手町に集まってくれるということに繋がると思うので頑張ってください。
④	妊活・産前産後ケアフェミニン保健室	妊活・産前産後ケア保健室	妊活・産前産後の女性が安心して自分を労わり、母としても女性としても輝き続けられる環境ときっかけ作りのため、心と女性の体の仕組みについての講座やセルフケアについてのワークショップ等を開催するもの。	43,000	○	43,000	<ul style="list-style-type: none">「妊活」という言葉について、企画書からは具体的に何をすることが妊活なのか目的や内容が伝わらないため団体で定義していただきたい。対象者に「産前産後の方」とあるが、事業の目的の中で産前産後を「子どもを一度でも授かるイメージができている人、準備をしている人など、今すぐ産むということでもなくとも、「産前」は「産前」になると思います。また、一度でも授かったことのある女性は産後から何年経っていても、「産後」は「産後」になると思います。」と定義しておりかなり幅広くになっている。女性なら誰でも該当する表現になっているため、誰を対象としたいのかをもう一度考えていただきたい。「産前産後」という言葉について、労働基準法第65条では産前産後休暇を取得することができる期間を「出産前6週間～出産後8週間」としている。団体が定義している上記の内容は一般社会に誤解を与えかねないため、事業名から外すなど、一度考えていただきたい。事業内容で「ホルモンケア」「メンタルケア」とあるが、例えばホルモンケアという言葉は男女問わず主に更年期の方に使われていることが多く、また妊活でホルモンケアをしますと言ってしまうと、婦人科領域の話になってしまうと思う。そのため、市が支援する事業内容ということであれば、専門的な言葉でなく平易な言葉を使って、わかりやすい内容を明確に表記していただきたい。事業実施の効果の欄に「女性の体には命を育む力が備わっています」と記載されているが、生まれつき「命を育む力」が備わっていない女性や、男性の体に女性の心で生きている人もいるため、弘前市の多様性を認めるという方針に大きく反してしまうので、この文章は削除していただきたい。子育て中の女性の孤立感を無くすための居場所づくりを行うことで地域が活性化ができるのであれば、大いに応援したいと思う。
合計			4事業	312,000	採択 4 事業 不採択 0 事業	312,000	